

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 旭区

学 校 名 清水小学校

学校長名 川本 直也

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・清水小学校では、第6学年 63名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科・理科の全てにおいて、全国・大阪市の平均正答率を下回る結果となった。全国平均と比べると、国語科は9.8ポイント、算数科は6ポイント、理科は3.1ポイント低い。また、大阪市平均と比べると、国語科は8ポイント、算数科は6ポイント、理科は1ポイント低い。国語科・算数科については、昨年度より全国・大阪市平均との差が大きくなる結果となった。

平均無解答率については、国語科・算数科は全国・大阪市の平均より高かったが、理科は全国・大阪市平均より低い結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語科〕

学習指導要領の指導内容における全項目で、全国・大阪市平均を5.9ポイント以上下回っており、言語力や読解力など国語科全般において課題があることが分かった。特に、「書くこと」においては、全国平均を15.2ポイント下回っており、無回答率が12%を超える設問もあることから、目的や意図に応じて文章に書き表したり、自分の考えが伝わるように文章を工夫したりすることが難しい児童が多いことが分かった。

〔算数科〕

学習指導要領の全領域において全国・大阪市平均を下回ったが、数ポイント程度の差の領域もあり、習熟度別少人数授業での一人一人に合わせた丁寧な指導や、ICT機器を活用した指導を継続してきた成果が一定程度見られる。

しかし、「測定」については、全国・大阪市平均との差が13ポイント程度あり、はかりの目盛りを読んだり、二つの数量の関係から問題を解決するために必要な数量を見だし、数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述したりする力の不足が見られた。

〔理科〕

「生命」を柱とする領域は、全国・大阪市平均を9ポイント以上上回り、植物のつくりや育つ条件を理解し、顕微鏡などを適切に操作して観察する力が身に付いていることが分かった。しかし、他の区分・領域は全国・大阪市平均を下回っており、化学に関する知識・技能が定着していないことが分かった。

質問調査より

国語科、算数科ともに「好きですか」「よく分かりますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、全国・大阪市平均を上回るか同程度という結果であった。学力向上支援チームなどと連携しながら、教員一人一人が「わかりやすい授業」を目指して、工夫・改善を続けてきた結果である。しかし、昨年度と同様に、学力調査の正答率に反映されていない。授業時間以外に家庭学習に取り組むことが難しい児童も多く、基礎的な学力が身に付いていないと考えられる。

一方、全国・大阪市平均と比較して、ICTを活用して学習する習慣が身に付きつつあることが分かった。これまで、ICTを活用した学習活動の研究活動に取り組んできた成果である。今後もICT機器や一人一台端末を活用したりして、基礎・基本の学力を定着させるための手立てを工夫していく。

生活習慣に関わる質問では、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目に対して、肯定的に回答した児童の割合は全国・大阪市の平均と同程度か上回っている。児童への声かけや家庭への啓発などを通じて、規則正しい生活習慣が身に付きつつある。

今後の取組(アクションプラン)

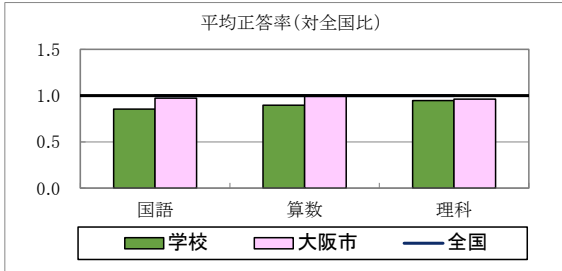
今年度も「子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり ～ICTを活用した学習活動を通して～」を主題として、教科にこだわらず研究活動を進めていく。ICT機器や一人一台端末を活用し、児童一人一人に合った学びやICTの効果的な活用方法を研究していく。そして、研究活動を通して、児童が「わかる」「できる」授業づくりを工夫していく。

また、朝の短時間学習も継続的に行い、英語に慣れ親しんだり、デジタルドリルを活用して漢字や計算などを繰り返し練習することで基礎・基本の学力の定着を図っていく。放課後の補充学習にも取り組み、学力の定着しにくい児童や家庭での学習習慣が身に付いていない児童への支援も行っていく。さらに、ブロック化による学校支援事業を活用し、自主学習ノートを児童に配布して、自主学習や家庭学習の習慣が身に付くように取り組んでいく。

【 全体の概要 】

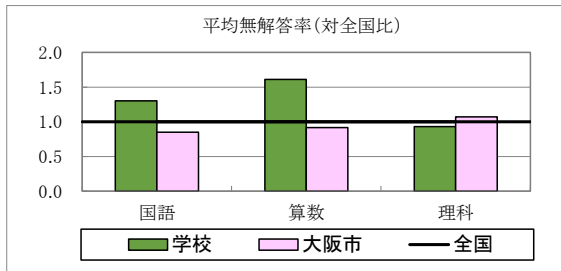
平均正答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 57 | 52 | 54 |
| 大阪市 | 65 | 58 | 55 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |



平均無解答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 4.3 | 5.8 | 2.6 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国 | 3.3 | 3.6 | 2.8 |



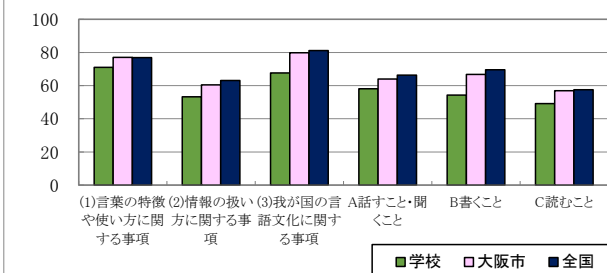
【 国 語 】

| 学習指導要領 の内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 71.0 | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 1 | 53.2 | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文 化に関する事項 | 1 | 67.7 | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 58.1 | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと | 3 | 54.3 | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと | 4 | 49.2 | 56.9 | 57.5 |

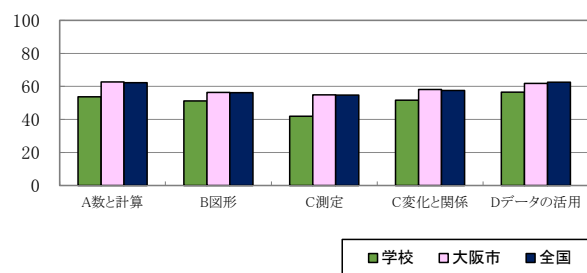
【 算 数 】

| 学習指導要領 の領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と計算 | 8 | 53.8 | 62.7 | 62.3 |
| B 図形 | 4 | 51.2 | 56.4 | 56.2 |
| C 測定 | 2 | 41.9 | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係 | 3 | 51.6 | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用 | 5 | 56.5 | 61.9 | 62.6 |

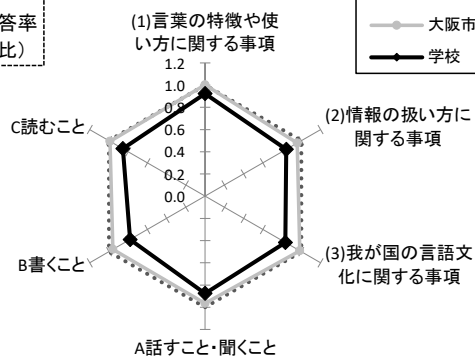
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



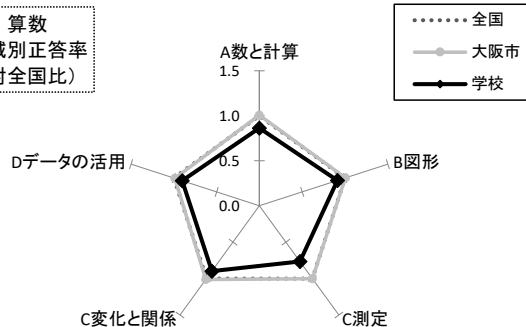
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

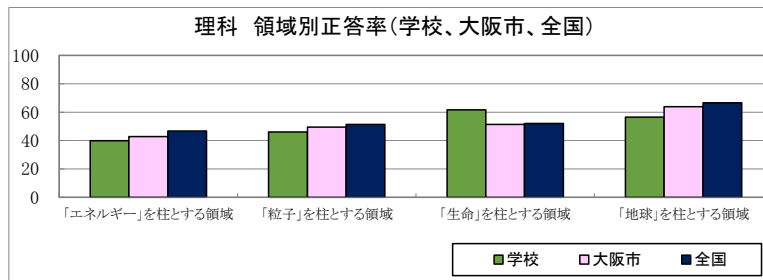


算数 領域別正答率 (対全国比)

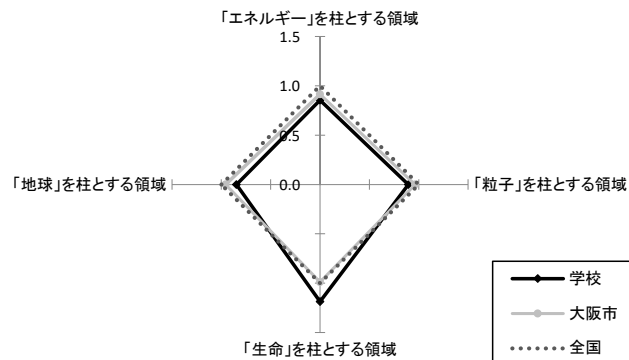


【 理科 】

| 学習指導要領 の区分・領域 | | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------|--------------------|------------------|----------|------|------|
| | | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 区 分 | 「エネルギー」を 柱とする領域 | 4 | 39.9 | 42.7 | 46.7 |
| | 「粒子」を 柱とする領域 | 6 | 46.0 | 49.5 | 51.4 |
| B 区 分 | 「生命」を 柱とする領域 | 4 | 61.7 | 51.4 | 52.0 |
| | 「地球」を 柱とする領域 | 6 | 56.5 | 63.8 | 66.7 |



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

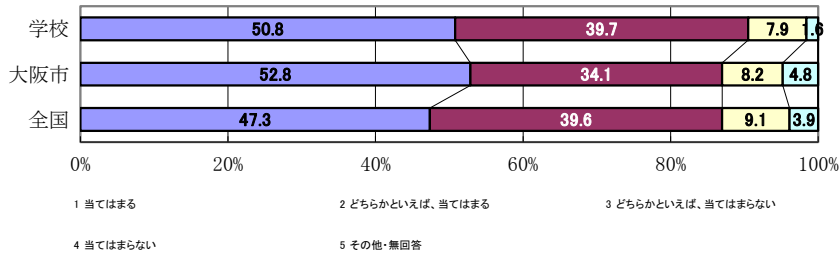
4

5

6

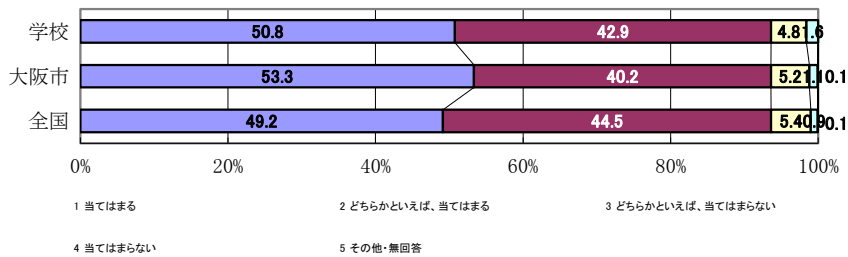
7

8



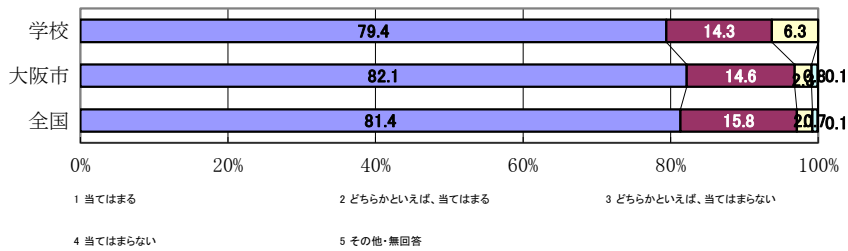
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



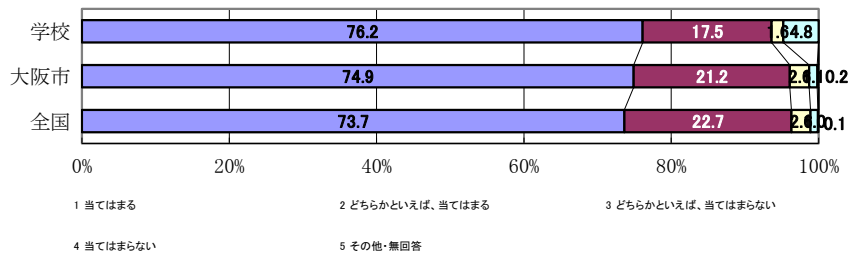
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



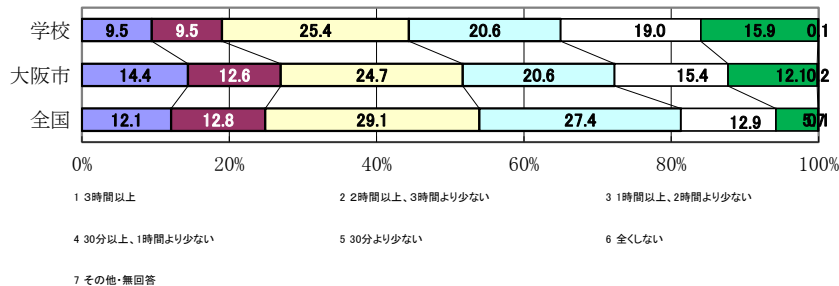
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



児童質問より

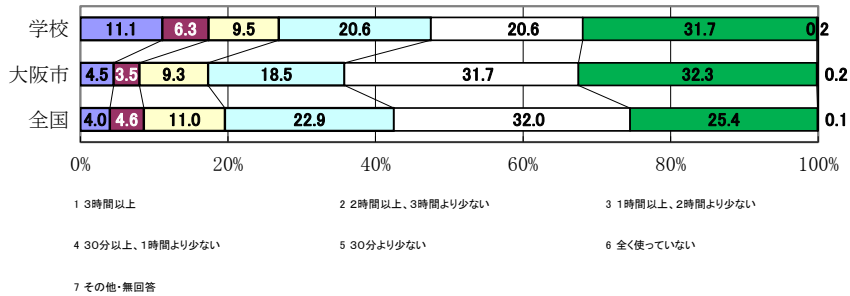
質問番号

質問事項

18

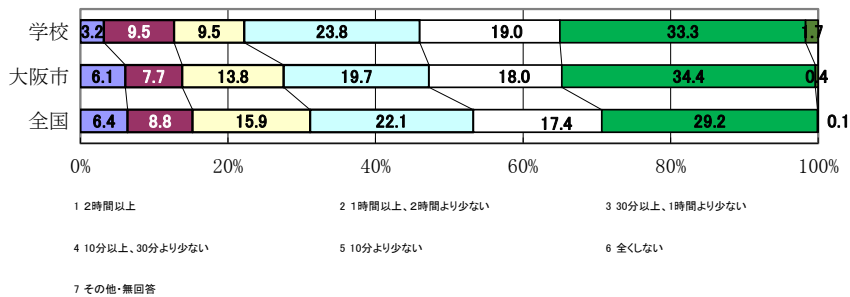
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

1 2 3 4 5 6 7 8



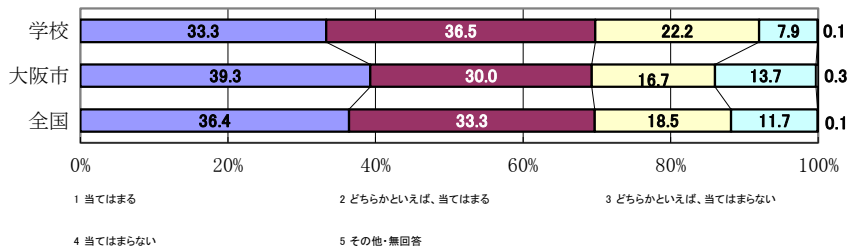
21

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



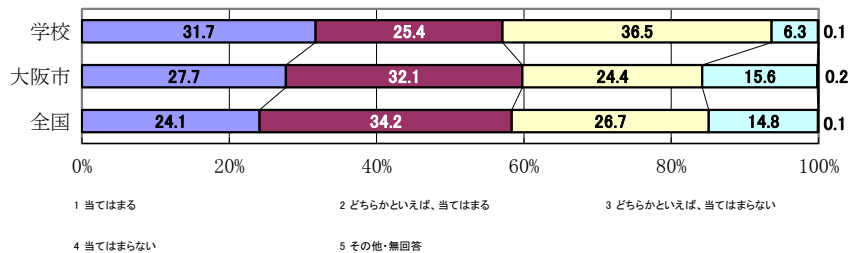
24

読書は好きですか



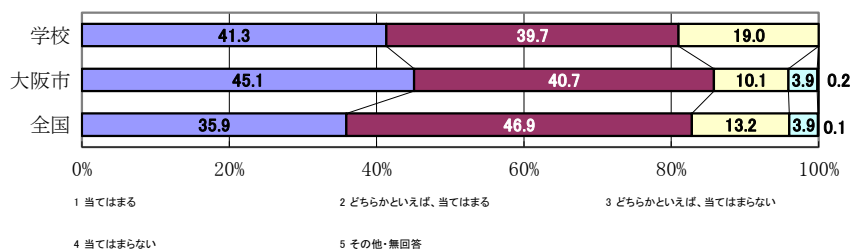
45

国語の勉強は好きですか



46

国語の授業の内容はよく分かりますか



児童質問より

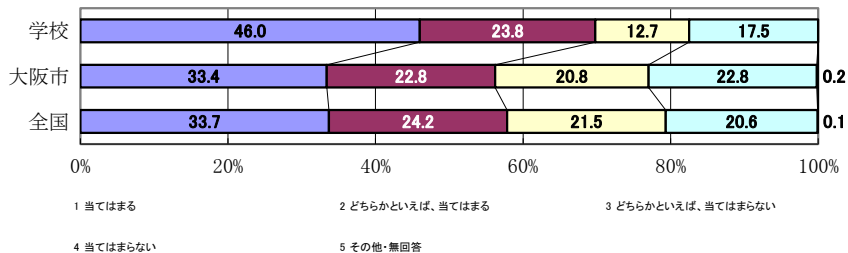
質問番号

質問事項

53

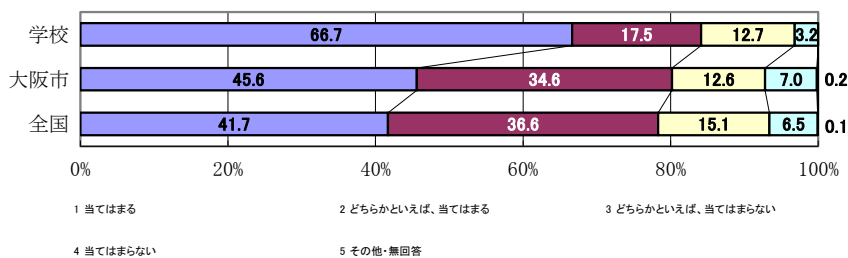
算数の勉強は好きですか

1 2 3 4 5 6 7 8



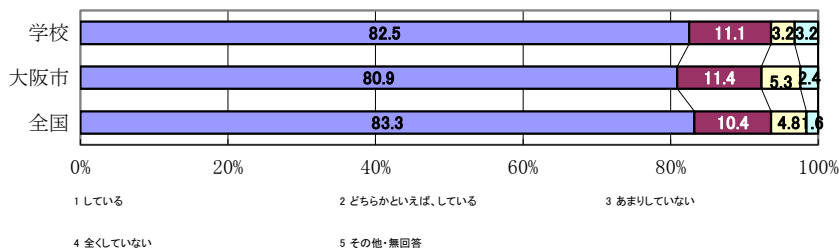
54

算数の授業の内容はよく分かりますか



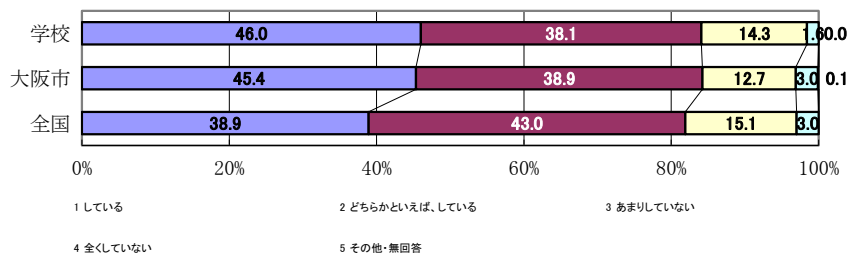
1

朝食を毎日食べていますか



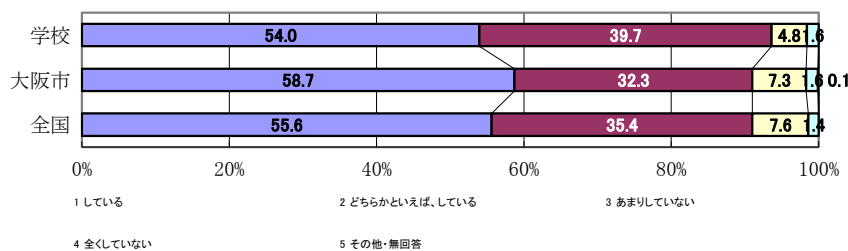
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



学校質問より

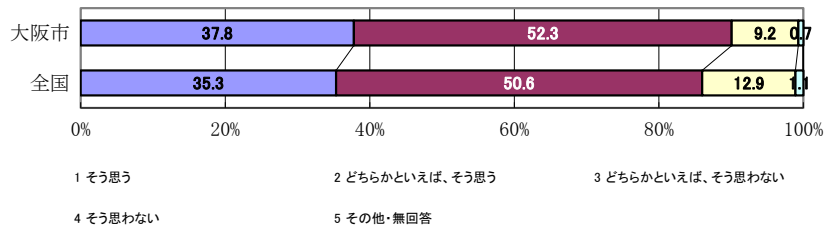
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

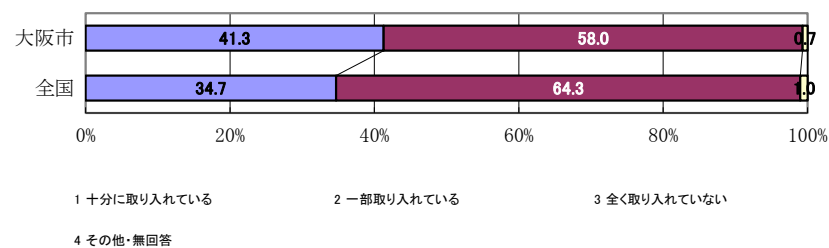
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

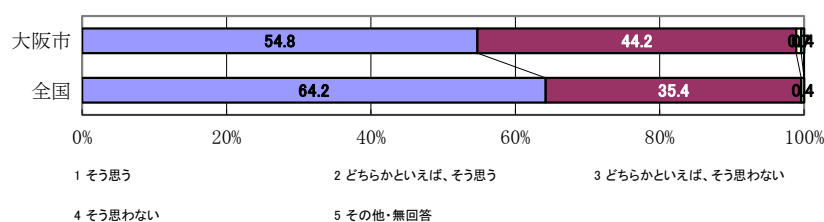
学校 「一部取り入れている」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

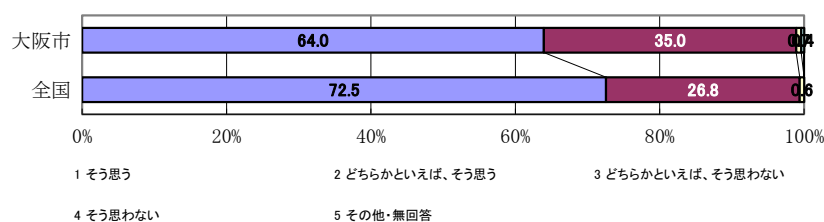
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

学校 「そう思う」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

